

山間地でもインターネット

NTT未来ネット研究所(神奈川県横須賀市)は地域間のデジタル・デバイス(情報格差)を是正する受信型のマルチメディアカーを研究、開発した。これを活用すれば電波の届かない難受信地帯へ移動し、内蔵している無線LANで結ばれた二十台のパソコンを利用して現地からでもインターネットやメールのやりとりが可能になる。自然の中で体験学習をした感動や記録を即座にまとめたり、災害発生地帯の情報収集に利用したり。応用が期待されるといふ。

同研究所とNTT東 前パソコン講座を二十日本岩手支店(真木英 五日、盛岡市新庄の市男支店長)はマルチメディア動物公園内で開催し、ディアカーを使った。盛岡白百合学園高



マルチメディアカーを利用して電波の受信難地帯の一つ、盛岡市動物公園内で開かれた出前パソコン教室

校の生徒の協力を得て、今後の活用方法を探るため全国で初めて実証実験が行われた。動物公園内は携帯電話などの送受信が難しい「電波の届かない」地帯。

マルチメディアカーは衛星電波を送受信できる衛星追尾アンテナを搭載しており、受信難の同園ビクトリアコナーを会場にパソコン教室が開かれた。同校一、二年生十九人が参加。生徒は貸与

NTTがマルチメディアカー開発

動物公園で実証実験

土男同校教諭の指導で、パソコンに画像を取り込んでホームページ作りに挑戦した。

車の周囲二百一三百センチ以内なら受信可能という。追尾装置があるため車両が走行しながらでも大きな支障はない。

同研究所ワイヤレスネットワーク制御研究グループの清水雅史主任研究員は「情報格差をなくすることが第一の目的。山間部ではISDNは引いてもADSLは何十年先になるか分からない。衛星を使った通信なら携帯電話のモバイル機能は不要。回線が太くなくても受信時には同じスピードが出る」と説明する。今後は送信について研究していく。

今後、機能搭載車両を低価格に抑えるなどの研究開発、利用サイトのニーズをくみ上げて要所に配備することができれば、都市部と難受信地域が同じ方法



衛星追尾アンテナ搭載のマルチメディアカー

で情報の受信が可能になる。さらに研究を進め、安倍教諭は「野外活

動などは外出するため報告などが後回しになる。より実践的にまとめなどが行えるのは」と学習への応用に期待する。

2001年(平成13年) 8月26日